

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公開番号】特開2005-237956(P2005-237956A)

【公開日】平成17年9月8日(2005.9.8)

【年通号数】公開・登録公報2005-035

【出願番号】特願2005-32058(P2005-32058)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/00 (2006.01)

A 6 1 L 27/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/00

A 6 1 L 27/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月30日(2006.6.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

組織を修復するために組織エンジニアリング方法を用いる傾向は長期間に亘る利益を患者に提供することを主な理由として人気を得続けているが、これらの現在の技術には課題がないわけではない。現在の組織エンジニアリング技術のひとつの課題は、その技術が時間を費やすことである。典型的なプロセスは、第1の手術手技で患者から組織サンプルを回収することを含み、回収された組織サンプルは次に細胞の分離、培養、および増幅のために実験室に運ばれる。細胞サンプルが標準的な細胞培養技術を用いて3週間から4週間に亘って成長させられて細胞バンクが生み出される。細胞数が目標数に到達すると、細胞は第2の手術手技の間に植え込むために外科医に戻される。この手作業による労力を費やすプロセスは非常に高価であり時間を費やす。臨床データは患者への長期間の利益を示すが、この手順のひどく高いコストは2度の手術手技の外傷を伴う衝撃と組み合わされて、これらの技術が採用されることを妨げてきた。さらに、同種移植片が組織を修復するため過去に用いられてきたが、この解決方法はグラフトの材料の入手可能性が限定されていることおよび疾病が伝染する可能性があることのために理想的ではない。

【特許文献1】米国特許第206,200号

【特許文献2】米国特許第224,226号

【特許文献3】米国特許第259,260号

【特許文献4】ロシア連邦特許第2,187,261号

【特許文献5】ソビエト連邦特許第1,535,542号

【特許文献6】米国特許第5,306,311号

【特許文献7】米国特許第5,624,463号

【特許文献8】米国特許第5,656,492号

【特許文献9】米国特許第5,681,353号

【特許文献10】米国特許第6,042,610号

【特許文献11】米国特許第6,530,956号

【特許文献12】米国特許第6,569,172号

【特許文献13】米国特許第6,592,588号

【特許文献14】米国特許出願公開第2002/009805号

【特許文献15】米国特許出願公開第2003/036797号

【特許文献16】オーストラリア特許第717,552号

【特許文献17】米国特許出願公開第2002/150604号

【特許文献18】米国特許出願公開第2003/075822号